

南小だより

文責 校長 櫻井

ボランティアさんへの感謝の会 ・安全対策会議・授業参観 2/18

この日は、日頃お世話になっている各ボランティアの方々をお招きし、感謝の会を催しました。開催に先立って、各学年に分かれて給食で会食をしました。

感謝の会では、よさこいや校歌をご覧いただくと共に、毎月のアルミ缶回収益金などで用意したお花他のプレゼントを贈呈しました。

児童会を中心に企画・実施することで、感謝の心や、それを伝える工夫が少しずつ育ったものと思います。



登下校時の課題について、各自治会単位で今後の対応などを話し合っていたいただきました。

午後の授業参観は、発表の学年が多く、一学期と比べ成長の跡を感じ取っていただけたかと思えます。インターネットに類するマナーについて考えた学年もありましたが、携帯電話等が絡んだ事件や問題が起きてくる折、便利な道具を持つ危険性についても親子で考える機会としていただければ幸いです。



一堂に集まった機会を生かし、区長さん方にも加わっていただき、安全対策会議も開かせていただきました。

音楽活動交流会 2/3

國學院栃木短大生との音楽活動交流会。今年度二回目のこの日は、一・二・三年生が対象でした。昨年同様、手遊び歌で子どもたちの心の壁を取り払い、これから始まる音楽活動へ自然と誘っていました。



続く音作りは、持参していただいた各種和太鼓とリコーダーを使つてのものでした。

八つのグループに分かれた後、各種和太鼓でリズム打ちの競演。そこにラ・ド・レのみの音階を使つてリコーダーで旋律を絡めていきます。乗りのいい子もいれば悪い子もいる中、学生たちが根気強く相手をしていました。与えられた数十分の時間の中で各グループとも仕上げ、発表会が開かれました。

柔軟な発想のできる若い頭脳は、同じ楽器を使つても、オリジナリティーあふれる作品を創り上げていました。

前回は書いたように、教育職を目指す学生には良き経験に、子どもたちには楽しいひとときに、私たち教職員には振り返りの

良い機会にと、三者三様に得るものが多い活動となりました。

六年生を送る会 3/4

五年生が中心となって六年生を送る会を企画し、準備を進めてきました。

縦割り班と一緒にゲームをしたりプレゼントをしたりして、残り少ない共に過ごせる時間を大切に楽しんでいました。

今回の企画・運営を通して五年生は、高学年となることへの自覚が少しずつ芽生えたのではないかと思います。

下級生たちも、上級生にお世話になってきたことに思いが至ったのではないかと思います。

人と人との関わりの中で心は育っていきます。

この日の放課後は職員と六年生とのお別れ会もありましたが、小野寺南小での多くの関わりを通して大きく大きく育ってほしいという思いを強くした一日でした。



教師冥利やのハ

(二十年ぶりの再会)

先月の小欄で、三十年ぶりに再会した教え子を例に、成長した教え子の姿を見るのは教師冥利に尽きると書いた。

実はその記事を書き終えた二月十四日、退職を聞きつけた静和小時代の教え子が、慰労会を設けてくれた。卒業以来の子、私が岩舟町に戻った七年前

に開いてくれた歓迎会以来の子、東京から駆けつけてくれた子、仕事場から駆けつけた子、滞米中の教え子からはかわいい花に添えて手紙が届いた。状況は様々だが、懐かしい顔が集まった。

気を利かせた幹事が、時差を見計らいながらアメリカにいる教え子の声も聞かせてくれた。途中からは、横のつながりが強い彼らのお陰で、他学級や他校の卒業生三人の飛び入り参加もあった。あまりのうれしさに時のたつのを忘れ、宴は深夜に及んだ。何十年ぶりの午前様となり、タクシーの運転手さんからは小学校では珍しいですねと

校長のつぶやき

言われた。

一人ひとりが自分の足でしっかりと歩みを進めていることに安心したばかりでなく、厳しいばかりであった自分には過分な企画を実現してくれた教え子のお陰で、教師冥利を超えて長い教師生活で最良の日となった。

小椋佳さんの「サヨナラ」という歌詞に

いつか逢う日の期待と

その時までの祈りと

この時までの感謝を

このひとことにたくして

サヨナラ

とある。

長い教師生活で関わった全ての人たちに「サヨナラ」を「ありがとう」に換えて贈りたい。

